

令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『「かさまSDGsプラットフォーム」の再起動』』

活動団体の活動地域：茨城県笠間市

活動団体名：特定非営利活動法人友部 commons

中間支援主体名：認定特定非営利活動法人セカンドリーグ茨城

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	特定非営利活動法人友部コモンズ
活動地域	茨城県笠間市
専門性・強み	
# 市民自治 # 市民参加 # 有機農業普及推進 # 環境再生型有機農業 # 森林再生活動 # コミュニティ農園 # ぞつだんコーヒー	

団体概要
この法人は環境課題と、「生きづらさ」などの社会課題の両方に取り組むべく令和3年に立ち上げた任意団体（令和5年NPO法人化）である。ミッションは“人間だけでなく、動物や昆虫、植物、微生物など、あらゆる生き物が居場所を持ち、調和して暮らせる地域をつくること”
“持続可能な地域をつくる＝地域内でできるだけ自給し、資源を循環させる”ことを目指し、市民主体で活動を推進する過程で、関わる一人一人が自分らしさを見つけ、発揮できるコミュニティを作る事で、環境課題と社会課題の統合的な解決を目指す。

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	認定特定非営利活動法人セカンドリーグ茨城
活動地域	茨城県全域
専門性・強み	
# 中間支援 # 子育て支援 # 市民活動支援 # ESD活動支援推進拠点 # 多様なネットワークづくり	

団体概要
活動エリア：茨城県全域 地域の課題解決に意欲的に取り組む市民や団体に対して、情報の提供、運営の相談、相互の交流、協働の促進などの事業を行うことで、多様な担い手により地域活動の活性化を促進させる。そのことによって、弱体化しつつある基礎コミュニティの再生と、地域社会と行政との協働の機会や、その手法の拡充を推し進め、「協働型社会」の実現に寄与し、また、子育て家庭を軸に地域に住む人々が共に支え合い、情報交換や学び合う場の運営などを通し、子どもが自分らしく成長でき、子育て世代の養育者が安心して活躍できる環境を地域の中に生み出していく。

活動団体と地域の紹介



写真：笠間市ホームページ、笠間市観光協会より

茨城県笠間市

人口 : 72,573人 (R2年10月時点)

面積 : 約240km²

主な産業 : 農業、観光

温暖な気候で多様な農作物が栽培可能。観光資源として栗、笠間稻荷神社や合気神社、笠間焼があるが、人口減少と高齢化が進行している。

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

自分たちの暮らす地域の在りたい姿を主体的に考え行動する多様な立場の人たちが集う場を通して一見立場の違う人たちが持続可能な地域づくりに向けた共通点を見出し、共創の連鎖が生まれやすい地域となっている

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

様々な立場や考えを持つ地域の人たちが、対話を通して想いを共有し、共創、事業創出ができる仕組みを確立する

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ・ マンダラワークショップの参加者から出た課題の学習会（講演・視察など）
- ・ マンダラWSを通じた「かさまSDGsプラットフォーム」の仕組み構築（スキーム化）

■ 地域の現状と課題

人口：69,959人（令和8年（2026年）4月1日現在）

1次産業：稲作を中心に栗等の果樹や小菊をはじめとする花き、野菜など様々な農作物が栽培できる環境にある。

栗は、栽培面積・栽培経営体数が全国の市町村の中で1位を誇る

高齢化（高齢化率33.2令和5年時点）と地域や農業の担い手不足

耕作放棄地の増加

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

『大池田地区地域再生プロジェクト』

【概要】

廃校をカフェや栗加工の場所として取り組んでいる地域福祉事業者が地域の高齢者向けに健康づくり・関係づくりの取り組みを検討している。地域の課題を詳しく把握するためにヒアリングの機会を必要としていることがわかり、地元出身者との対話の場を今後、検討するところにいる。その他、農業推進や森林再生についても話題となった。

【段階】

地元出身者との対話を通じて大池田地区の資源や人脈を発掘していく。

【実施時期】

2025年7月3日・8月4日

【活用している自然資本・地域資源】

- ・廃校の運動施設の地域住民への解放
- ・地域内の放棄林利用
- ・地域内の耕作放棄地の利用

【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・旧笠間東中学校の運動施設を利用した高齢者の健康増進の憩いの場づくり
- ・地域の祭り復興

今後の展望

旧笠間東中学校を地域の拠点として高齢者の健康増進や周辺山林の整備、耕作放棄地利用など行ない、地域の祭りを復興させるなど、人の繋がりの再生も目指す。

『生物多様性回復プロジェクト』

【概要】

マンダラづくりワークショップに参加した、笠間市役所に関わっている事業者を通じて、笠間市内の生物多様性回復エリアに取んでいる団体に対して自然共生サイト登録の推進が始まった。笠間市役所環境政策課との対話も始まった。

【段階】

上記事業者とオンラインMTGとメールでの情報交換を経て、笠間市内の回復エリアを対象とした自然共生サイト登録の手続きを進める方向で合意。

【活用している自然資本・地域資源】

- ・耕作放棄地のビオトープの取り組み
- ・放棄林地の森林機能再生の取り組み
- ・耕作放棄田んぼ(谷津田)の復田の取り組み
- ・水源地再生の取り組み

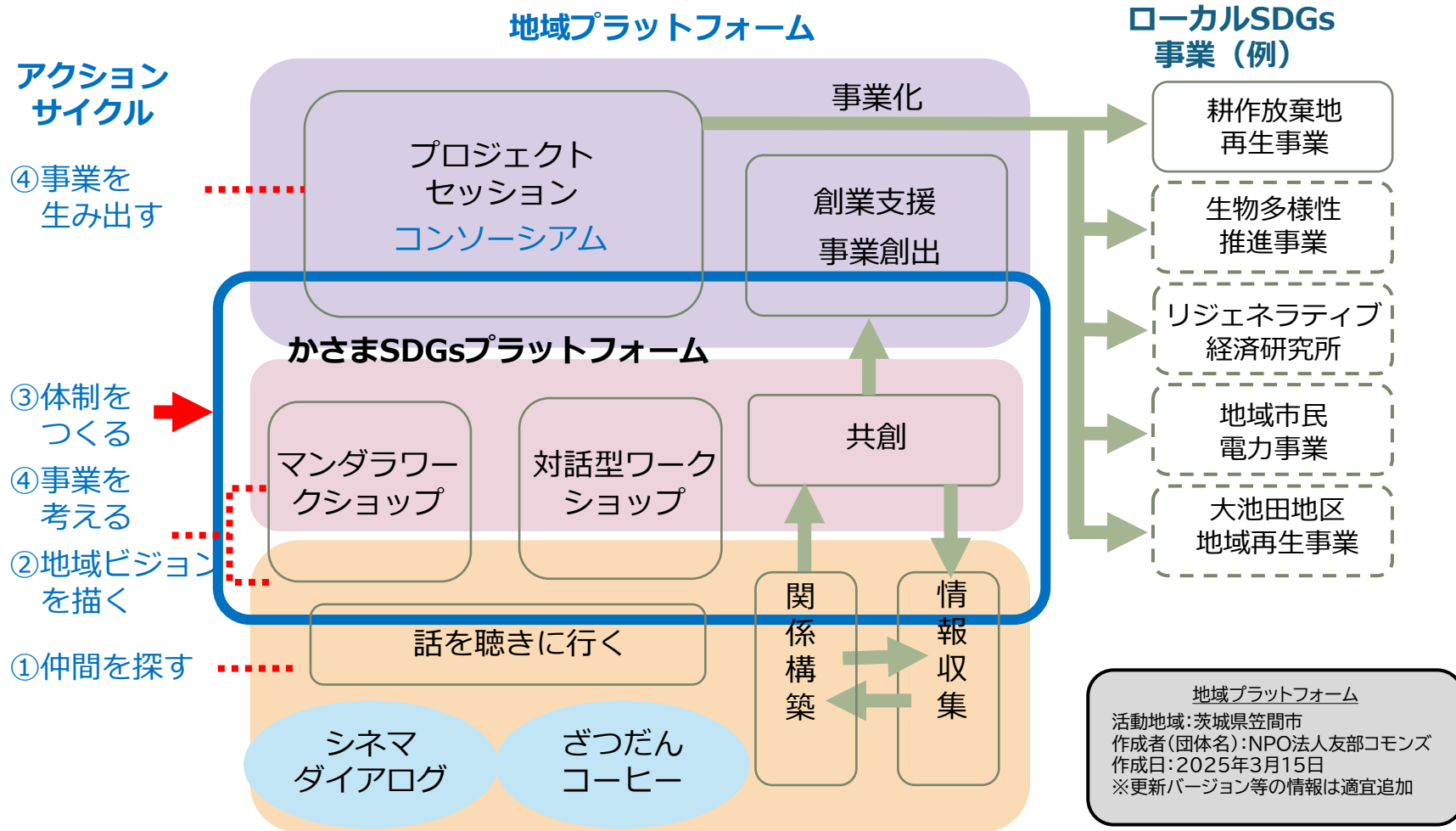
【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・自然共生サイトの登録
- ・生物多様性認定連携市町村の申請

今後の展望

来年度、自然共生サイト登録を進めながら、森林再生に協力する提携企業を地域内外に見つけ、資金や人材を厚くし、生物多様性回復を推進していく体制をつくる。

(参考) 現状の地域プラットフォーム



3カ年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

・「かさまSDGsプラットフォーム」のリアルと並行したデジタルプラットフォームを構築し、地域のリアルな声や状況の変化をデジタル上に反映しデジタル笠間版マンダラも提示しながら、リアルの繋がりをつくる場としてのプラットフォームやギャザリングを定期的に開催し、ローカルSDGs事業が生まれる仕組みのひな型ができている。

■ 2026年度末の状態目標

・「かさまSDGsプラットフォーム」参加者の中から自分たちで課題解決に取り組もうとする人たちが増えローカルSDGs事業が1つ生まれ、スタートアップ状態にある。

■ 2025年度末の成果と振り返り

・マンダラづくりワークショップを段階的に開催し、多様な立場の人たちで作り上げた笠間版マンダラの精度が上がっている。
・マンダラづくりワークショップを通じ、「かさまSDGsプラットフォーム」のスキーム化が進んでいる。
・マンダラづくりワークショップを通じ、地域の環境や社会課題に関心のある人たちが地域づくりに関心をもって動くようになってきている。参加者どうしで共創の気運が高まっている。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> ・「かさまSDGsプラットフォーム」を再開し、マンダラづくりを通じローカルSDGs事業構築の土台を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かさまSDGsプラットフォーム」を定期開催する ・運営チームと計画を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体構造と運営体制 ・マンダラづくりの方法 ・事業づくりのプロセスデザイン
②	仲間を探す 事業主体を探す	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度事業を通じて繋がってきた方はじめ多様な分野の方と「かさまSDGsプラットフォーム」で「マンダラづくり」と「対話」をベースに関係を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者や場の設計などの企画 ・アウトプットと運営体制 ・友部コモンズ内部での調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営事務局機能（告知・会場準備・参加者管理・当日必要な物の管理など） ・多様な地域団体（観光・子育て・環境など）との連携
③	地域のビジョンを描く	<ul style="list-style-type: none"> ・マンダラをつくる過程で笠間市のどの地区の声かをとらまえながら、地区での課題やビジョンを考える糸口を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かさまSDGsプラットフォーム」でつくったマンダラを使い、地域の方々の声をさらに集めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに繋がっている地区の方々 ・自治会との連携 ・市役所との連携
④				

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

かさまSDGsプラットフォームマンダラづくりWSを通じて作成した地域版マンダラを、昨年度参加が難しかった笠間市民と共に笠間市の現状を俯瞰できる資料を作成し笠間の現状を共有するとともに、様々な視点を持つ参加者同士を繋げ活動や事業を共創する下地づくりをする。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	「かさまSDGsプラットフォーム」を通じた対話・議論を通じて、参加者内での共有知や暗黙の合意が生まれ始めているが、より広く多様な主体を巻き込んでいくためのビジョンの可視化・整理が課題になっている。また、ワークショップの内容が構造的に整理されておらず中長期的に対話・議論の場を継続するには、一定程度の構造化・形式化が必要。	<ul style="list-style-type: none">・マンダラづくりWSの基本的考え方や手法を関東EPOから学び、そこから得られた成果を基にWS参加者ともに対話を重ね、マンダラの階層を重ねていく・WS参加者が課題や魅力として挙げた「もの」や「こと」を皆で見学するなどつながれる機会や場をつくり参賀者どうしから共創が生まれるきっかけをつくる

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

- 支援団体の主体性とミッションを大切にしながら、実際に行う事業活動を具体的に支援できる中間支援団体を目指す。
- 中間支援主体としてさらに獲得したい中間支援機能は、専門家集団や別の事業などを行っていて中間支援ができる団体とのネットワークをつくり、支援する仕組みを構築する。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

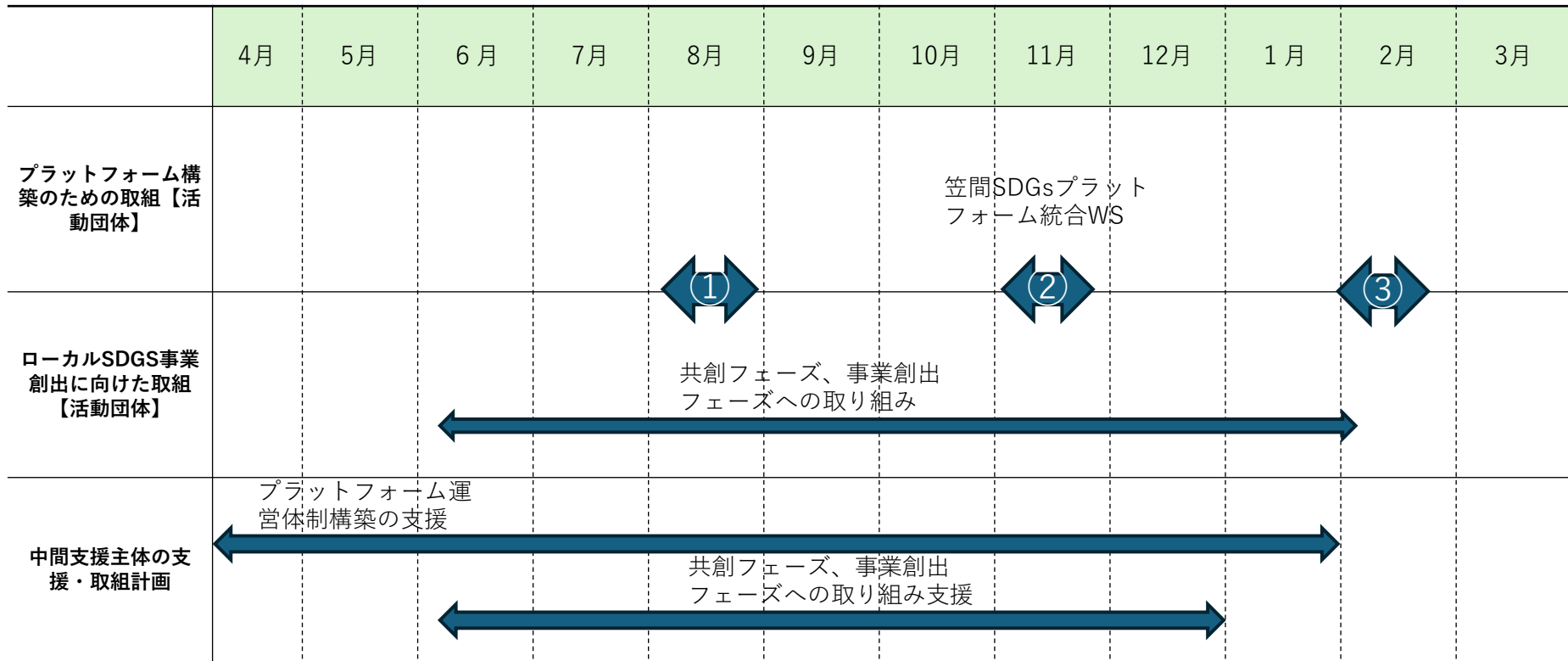
セカンドリーグ茨城が目指す「協働型・共助型社会」の実現のために地域循環共生圏を目指す地域プラットフォームの概念を取り入れる。

人間が健康で健全な暮らしを継続して行くためには、健康で健全な自然環境は欠かせない。それを持続可能なものにする視点や価値観が経済活動や暮らしに必須と考える。

友部コモンズが目指すプラットフォーム中に子ども子育ての領域を加え、地域の学校や教育機関もステークホルダーに加え、地域循環共生圏の未来がつながるプラットフォームをモデルとし、県内に地域循環共生圏づくりを広げ、各共生圏がネットワーク化することを目指す。そのために3ヵ年通じて知識やノウハウを共有し、スキーム化に取り組み、中間支援主体として協働して推進していく人材や団体を茨城県内に拡げることを目指す。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）

8月・11月・2月の3回は、各ローカルSDGsプロジェクトの方々を集めて、プロジェクトの統合WSとして情報共有しながら、昨年度とは違った層も交えて、それぞれの知見や見通しを共有し、共感者を増やしていく。また地域を俯瞰して見られるマンダラを共有し、ブラッシュアップしていく場も継続して実施する形を模索し、適切な働きかけによって、共創・場の運営や事業創出フェーズに参加してくれる方を探し、増やしていく。WS参加者から出た課題の学習会を行うなど、参加者が中心となり、かつ他の参加者との共創も期待できる取り組みを行い、WS参加者と共に事業の種を探していく。